

平成二十二年七月二十六・二十七日、栃木県総合文化センターと宇都宮市内各会場において、大会テーマ『幼児教育の成果を示そう』～人格形成は幼児期の生活とあそびから～のもと、県内百八十一園、千四百八十九名の参加者を集めて本大会が開催された。

一日目は式典と講演会とセミナー、二日目は十七の分科会に分かれて研究・研修に取り組んだ。

第57回 栃木県幼稚園教育研究大会



時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第 102 号

平成22年9月20日

(社) 栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／馬場章信 ●発行人／石嶋 昇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



式典

主催者挨拶 (要約)

栃幼連理事長 石嶋 昇

六十年ぶりに「教育基本法」が改正されたことに始まった一連の教育改革の流れの中で幼児教育の大切さが法律にも明記され、また「脳科学」の世界でも「情動」が五歳頃までに固まることが証明される等、幼児教育の重要性は益々高まっています。一方その幼児期の教育が今大いに揺らいでいます。政府は「子ども子育て新システム検討会議」で幼保一体化を検討していましたが、六月二十五日に発表された基本制度案要項では、教育的視点に欠けており、これまで幼児教育を担ってきた幼稚園の役割には全く触れられていません。また「地域主権改革関連法案」では、最低基準の地方条例化・児童福祉法改正等の審議が進められ、ナショナルミニマムの低下による子育て・子育て環境の悪化が懸念されます。

私たちはこれらの状況の変化に惑わされることなく、常に子どもの幸せを第一に、日々の保育に全力を尽していかなければなりません。

表彰

「子どもの最善の利益」を守る施策の推進を、政府の行うヒアリングをはじめ、あらゆる機会を捉えて訴え続けていくとともに、現場サイドは動揺することなく、日々進化する教育に資するためにも、研修活動に全力を注ぎ専門性を更に高めてまいりましょう。

受賞おめでとうございます

● 栃幼連 幼稚園教育功労者表彰

教育振興功労 二名
教育研究功労 一名

● 栃幼連 永年勤続表彰

四十年表彰 二名
三十年表彰 十二名
二十年表彰 二十三名
十年表彰 五十名

来賓祝辞

本大会に際し、県から福田富一知事代理として須藤揮一郎副知事、県議会を代表して県政経営委員会より五月女裕久彦委員長、開催地を代表して佐藤栄一宇都宮市長代理として刑部郁夫宇都宮市子ども部長、また県教育委員会から須藤稔教育長代理として山形昭夫学校教育課長、県経営管理部より新井隆文書学事課長、幼児教育センターより増田眞千子センター長に来賓としてご臨席いただいた上、それぞれ祝辞を頂戴した。

講演

「心根を育てる」

(株)環境緑化研究所代表取締役
あしかがフラワーパーク園長

塚本こなみ氏

女性樹木医第一号として知られた氏は、あしかがフラワーパークの大藤の移植を手がけ、これを縁に園内の造園設計も担当、同フラワーパークの園長に就任している。

小学生を相手に、屋久島の杉に会いに行き、杉の声を聞いて来る。次に、学校の校庭にある木々のうち、自分のお気に入りの木を選び、木と話をするとという授業の話は、感動的だった。



セミナー

「福尾野歩セミナー」

旅芸人 福尾 野歩氏
先生方のリクエストが大変多かった、ご存知「トラや帽子店」の元座長、福尾氏を招いてのセミナー。

「大工のきつきさん」「Hi!Hi!Hi!」など、お馴染みの歌に合わせて繰り広げられるパフォーマンスの数々に、会場一同が抱腹絶倒（ノリが悪いと怒られそうなど）。保育技術アップにもなり、リフレッシュにもなり、楽しくもあつという間のひとときを過ごした。男性保育者へのエールも多かった。



園の課題にもとづく研修の在り方 (37名)

助言者 岡 健(大妻女子大学准教授)
コーディネーター 小倉 庸寛(愛泉幼稚園主事)



参加者の声

教師の向上のために自園で機能していない部分が明確になり、改善への道筋が見えた。

3分科会

2～6才の発達、保育のあり方 (109名)

助言者 青柳 宏(宇都宮大学教授)
コーディネーター 沼尾 広美(聖アントニオ幼稚園教諭)



参加者の声

テーマの幅が広すぎたように思う。満3歳についてもっと知りたかった。

4分科会

社会性の育ちと子どもの規範意識の芽ばえ (80名)

助言者 横山 洋子(千葉経済大学短期大学部准教授)
コーディネーター 高瀬 恵(佐野みのり幼稚園長)



参加者の声

難しい研究テーマで理解するのに苦労したが、少しわかってきたように思う。

5分科会

保育記録を活かしながら、幼児一人ひとりの成長を見守る(要録記入研修) (84名)

助言者 鈴木 智恵(栃木県幼児教育センター指導主事)
コーディネーター 小野塚 聡(おもちゃのまち幼稚園長)



参加者の声

日々の保育の反省、子ども一人ひとりの記録の大切さを痛感した。

6分科会

気になる幼児と障がいへの理解 (97名)

助言者 秋場美智子(発達障害者支援センター前センター長)
コーディネーター 福田 春雄(野崎幼稚園長)



参加者の声

気になる子への他園の対応の仕方や、たくさんの知識・情報を得ることができた。

7分科会

第57回 栃木県幼稚園教育研究大会 2日目

21世紀を担っていく子どもたちが、瞳きらめく数々の体験を通じて豊かな心を育み、生きる力の基礎を培っていただけるよう、猛暑の中で迎えた2日目(7月27日)、17の分科会に分かれて研究・研修にあたった。

各分科会の問題提起者と会場は下記のとおり。

●保育内容研究部門

分科会	問題提起者	会場
1	金田 和美(松ヶ峰幼稚園教諭) 本庄 圭祐(まこと幼稚園教諭)	二荒山会館
2	川島 暁(バンビ幼稚園主任) 内木 大輔(第二薬師寺幼稚園副園長)	県総合文化センター
3	寺内 宏子(作新学院幼稚園教諭) 長 亜紀子(法得幼稚園教諭)	県総合文化センター
4	福田 直子(輪王寺附属日光幼稚園教諭) 加藤 聖子(今市幼稚園教諭)	二荒山会館
5	竹村 恵(呑竜幼稚園教諭) 加藤 早苗(佐野みのり幼稚園教諭)	二荒山会館
6	高根沢伸友(宇大附属幼稚園教諭) 長島 弥生(認定こども園あかみ幼稚園教諭)	とちぎ青少年センター
7	小池 栄子(釜井台幼稚園教頭)	県総合文化センター
8	星野さやか(宇大附属幼稚園教諭) 安藤 紀子(聖母幼稚園教諭)	ホテルニューイタヤ
9	菅野多希子(たちばな幼稚園教諭)	パルティ
10	高野 直子(ひかり幼稚園主任)	コンセーレ
11	岩井 優子(牧が丘幼稚園教諭)	パルティ
12	佐藤 広志(七井幼稚園長)	県総合文化センター

●講座部門

分科会	会場
13	作新学院幼稚園プレイルーム
14	コンセーレ
15	篠井地区市民センター

●免許更新、新採研

分科会	会場
16	コンセーレ
17	栃木県総合教育センター

02

心の育ちと保育 (86名)

助言者 加藤千佐子(作新学院大学女子短期大学部教授)
コーディネーター 関 弥栄子(陽の丘幼稚園教頭)



参加者の声

加藤先生のお話がとても楽しくわかりやすく、日々の保育を見直す良い機会になった。

1分科会

自園の特色や方針を理解して生かす保育 (43名)

助言者 荒井 冽(白鷗大学名誉教授)
コーディネーター 大中 清見(法得幼稚園長)



参加者の声

荒井先生はすばらしい。また別の機会でもお話を聞きたい。

2分科会

保健・安全講座

～保育中のケガや病気等への対応と予防～(46名)

助言者 大畠 秀子(作新学院高等学校養護教諭)

コーディネーター 桑子 佳子(矢場川幼稚園長)



参加者の声

養護教諭の専門的なお話がとてもためになった。

13分科会

特別支援教育における保護者とのかかわりと連携(74名)

助言者 川原 誠司(宇都宮大学准教授)

コーディネーター 若林 佳子(仁神堂幼稚園教諭)



参加者の声

保護者に「いつどのように伝えていくか」について勉強になった。自園に持ち帰り早速話し合いしたい。

8分科会

つたえよう手のぬくもりを

～豊かな感性を育てるための教材～(120名)

助言者 小宮路 敏(文科省指定小学校音楽教科書編集員)

コーディネーター 白井 直美(かしわ幼稚園教諭)



参加者の声

素敵な歌や遊びを学び、また、笑顔・言葉・愛・パワーをもらいました。

14分科会

保育に生かす幼児の記録(83名)

助言者 永井 弘美(栃木県幼児教育センター副主幹)

コーディネーター 酒井 明美(吹上幼稚園長)



参加者の声

記録の大切さ、どのような記録が有効なのかを具体的に学べたのですぐに実践したい。

9分科会

不思議を見つけよう!

～幼児期における科学的思考力の芽生えとは?～(57名)

助言者 宮里 和則(日本ダンゴムシ協会主宰)

コーディネーター 市村 直哉(ふじおか幼稚園教諭)



参加者の声

園に戻ったら早速、ダンゴムシレース、ポンプ式水鉄砲で遊ぼうと思う。

15分科会

幼児期にふさわしい体験や活動を考える(115名)

助言者 三塚 悦子(虹ヶ丘幼稚園副園長)

コーディネーター 浅見 容子(ふたば幼稚園主任)



参加者の声

子どもの目線に立って、保育を見直してみようと思った。

10分科会

免許状更新講習(45名)

助言者 石原 栄子(作新学院大学女子短期大学部教授)

コーディネーター 山荷フサ子(作新学院幼稚園教頭)



16分科会

共感し合える保育者と保護者の関係づくり(76名)

助言者 山路 純子(前 常磐短期大学教授)

コーディネーター 加藤みどり(真岡さくら幼稚園長)



参加者の声

他園の先生方と活発な情報交換ができ、有意義だった。

11分科会

新規採用幼稚園教諭研修(188名)

①幼児理解について

全体会：高木 恵美(栃木県幼児教育センター指導主事)

演習：各地区新採教諭研修指導者

②ワークショップ「コミュニケーション能力の向上を目指して」

指導：栃木県幼児教育センター2名、栃木県総合教育センター生涯学習部4名

(詳細はP.7)



17分科会

幼稚園が地域に根ざすということ(51名)

助言者 渡邊 眞一(初音丘幼稚園長)

コーディネーター 井上 智賀(旭幼稚園長)



参加者の声

他園の事例を聞いて大変参考になった。

12分科会

研修会だより

第一回 保育テクニカル講座

期日 平成二十二年六月八日（火）
会場 栃木県総合教育センター・体育館

内容 「運動あそびを楽しく指導するポイント」

講師 幼児体育連盟 橋本幸造氏
参加 一四八名

メモ マット運動・縄跳び運動・跳び箱運動のポイント、楽しく体を動かす指導ポイントについて学んだ。年齢別の指導や身近にできる運動遊びなどを学ぶことができた。とても勉強になった。特に、年齢別の指導を聞いて、日々の積み重ねが大切だと実感した。



特別支援教育研修会

日時 平成二十二年六月二十一日（月）
午後二時半～四時半

会場 二荒山会館（鶴の間）

内容 「発達障害児の理解と支援」
講師 宇都宮大学教育学部教授

参加 一〇二名 梅永雄二氏

メモ 自閉症・アスペルガー症候群等の広汎性発達障害、LD、ADHD等の発達障害の具体的な説明に加え、これらの子への対応としてアメリカの情報を含めてトータルサポートの観点から幼児期の援助方法を学んだ。



第一回 設置者・園長経営研修会

期日 平成二十二年六月十五日（火）
会場 二荒山会館（鶴の間）

内容・講師
説明会①「与薬について」
「法人税について」
経営研究委員長 酒井精一氏

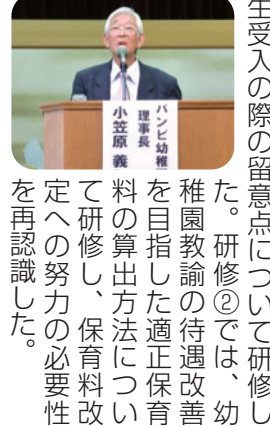
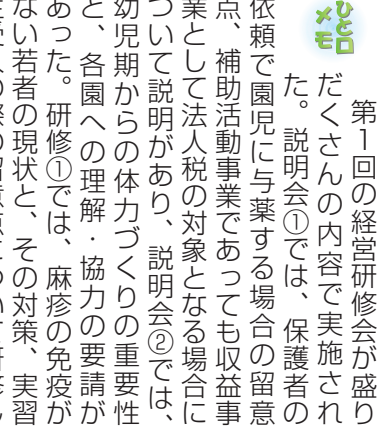
説明会②「子どもの体力づくり推進について」
栃木県教育委員会スポーツ振興課 指導主事 渡邊伸夫氏

研修①「麻疹について」
栃木県健康増進課 岡本その子氏

研修②「安定した経営を目指して適正な保育料を考える」
バンビ幼稚園 理事長 小笠原義仁氏

参加 八四名

メモ 第一回の経営研修会が盛りだくさんの内容で実施された。説明会①では、保護者の依頼で園児に与える場合の留意点、補助活動事業であっても収益事業として法人税の対象となる場合について説明があり、説明会②では、幼児期からの体力づくりの重要性と、各園への理解・協力の要請があった。研修①では、麻疹の免疫がない若者の現状と、その対策、実習生受入の際の留意点について研修した。研修②では、幼稚園教諭の待遇改善を目指した適正保育料の算出方法について研修し、保育料改定への努力の必要性を再認識した。



第二回 新規採用教員研修会

期日 平成二十二年六月十七日（木）
平成二十二年六月二十日（火）

会場 宇都宮大学教育学部附属幼稚園
公開保育・保育研究

参加 十七日 八五名
二十日 一〇二名

メモ 集合研修二回目として、新装となった宇都宮大学教育学部附属幼稚園を会場として、公開保育・保育研究が行われた。幼稚園教諭として二カ月、日頃担当している年齢とは違った保育を見学し、保育の中身を知り、自分の保育を見直す良い機会となったのではないだろうか。



教頭・主任講座

期日 平成二十二年七月二日(金)
会場 ひなぎく幼稚園(さいたま市)
内容 保育参観・施設見学・講演
 「教育目標を保育の中に
 具体化する方」

講師 学校法人浅沼学園
 ひなぎく幼稚園長

参加 二八名

メモ 園児たちは、幼稚園の隅々まで利用して、それぞれの思いを持って遊んでいた。まさに「Kids Firstであること・幼稚園であること・子ども一人ひとりが主人公であること」というポリシーを実践している園である。

先生方も「子どもたちのためにどうあるべきか」を考え、子ども一人ひとりを認め、受け止め、きめ細かい目配りや気配りをしている様子が見られた。

園長浅沼氏をはじめ、諸先生方も倉橋イズムを継承し、月一回行われる勉強会にも自主的に参加し、各々が教育の質を高め、子どもに寄りそ



う教育を展開している印象を受けた。子どもの把握が十分でない場合は、教師同士が連携しお互いが子どもたちの様子を報告し合う等して補っているのとこのであった。

第一回 保育セオリー講座

期日 平成二十二年七月五日(月)
会場 コンセーレ(大ホール)
内容 「自分の性格エネルギーを知る…交流分析の基礎(3つの私とエゴグラム)」

講師 NPO法人日本交流分析協会
 教授 小林雅美氏

メモ 性格は五つのエネルギーに分けられることを知り、実際に自己分析することで、なりたいた自分になるにはどうしたらいいのかわかった。また自己分析することで、自分の直していきたくところも再認識でき、子どもたちや保護者、職場の人たちとのよりよい人間関係作りにつなげていきたいと思った。

性格は五つのエネルギーに分けられることを知り、実際に自己分析することで、なりたいた自分になるにはどうしたらいいのかわかった。また自己分析することで、自分の直していきたくところも再認識でき、子どもたちや保護者、職場の人たちとのよりよい人間関係作りにつなげていきたいと思った。



栃連スクールバス安全運転研修会

日時 平成二十二年七月二十六日(月)
 午後二時半～四時
会場 二荒山会館(鶴・亀の間)
内容 「スクールバスの交通安全教育」

講師 宇都宮中央警察署交通総務課
 企画係長 森本誠四郎氏

参加 一六一名

メモ 交通事故を未然に防ぐためのポイントをお話ししていただき、一人ひとりが安全運転意識を高める効果的な研修となった。



1. シートベルトは正しく確実に装着する事
2. 交差点では必ず一時停止し、人や車の動きに注意する事
3. 暗くなつてからの運転は危険です。遠目・近目のライトを上手に使い分ける事
4. 運転中に気分が悪くなったときは、無理せず運転を中止する事
5. しっかり自分の目で、二度三度と安全確認する事
6. 一口でもお酒を飲んだら運転は禁止する事

第二十五回全日私幼連 関東地区教員研修 千葉大会

期日 平成二十二年八月十七・十八日
会場 幕張メッセ(千葉市) 他
内容 毎年恒例の関東地区教員研修が、幕張メッセをメイン会場に二千名超の教員が集まり開催された。来賓の森田健作知事、日本一若い熊谷俊人市長から心温まる言葉をいただいた後、記念講演では東北大学の川島隆太教授より「脳を育む幼児教育」という演題にて、脳の働きと保育についてとても興味深い話が聞けた。二日目は十九のフォーラムに分かれて研修が行われ、第5フォーラム「心の育ちと保育」、第8フォーラム「特別支援教育における保護者とのかわりと連携」を栃木県が担当した。厳しい暑さのなか、お骨折りいただいたコーディネーターと問題提起者の先生方へ敬意を表したい。



新規採用幼稚園教諭 宿泊研修報告

新採研泊研修実行委員長

上野 和彦

(にのみや幼稚園長)

八月四日(水)～六日(金)、一六八名の新規採用教員が参加し、とちぎ海浜自然の家において、平成二十二年度新規採用教員の宿泊研修が行われた。昨年同様、「子どもたちのために実践してもらいたいものを提供する」「技術だけでなく人間性も磨く」を柱にプログラムを組み立て、また、新採ならではの悩みや苦しみを共感し合い、励まし合い、勇気づけ合うことも大切に、夏休み明けの保育へ向かう気持ちを後押しする研修と位置づけた。以下、現場での様子を報告させていただく。



最初のグループワークトレーニングでは、グループ内でのお互いの役割や関係性に気づき、また一六八人全員で一体感を味わう活動を行った。例年以上に、柔軟な発想や、皆でまとめる力が感じられ、この後のプログラムでどんな可能性の顔を見せられるのか楽しみにいった。

選択活動は、色々な気づきが持てるように六種類から二つを選択して参加してもらった。時々自分のクラスの子どもたちを思い出しながら楽しんだ



り、工夫したりする姿から、これから自力で成長するためのヒントをつかんだように思えた。

ところで選択活動を担当したのは、プロの研修コンサルタントや慣れた講師ではない我々実行委員である。「この場で100%のものを伝えることができなくても良いじゃないか」「良かった部分もそうでなかった部分も含めた全ての中から、何か気づいてもらえれば良いじゃないか」と励まし合って準備を進めてきた。不十分な部分、反省点はたくさんあったと思うが、我々なりに達成感と満足感を持たせてもらうことができた活動となった。



二日目の全体研修は、技術だけでなく人間性も磨くということから、「クレドづくり」を行った。クレドについて、正確に理解し作り上げるのは時間的にも難しいということで、『今後の保育を後押ししてくれるアイテム』という理解で作成することにした。幼稚園教諭としての自分の理想像を具体的に掲げ、それを実現させるための設計図をカードとして完成させたのである。カードは、常に身近なところに置いて、「自分の芯」を確認しながら日々の保育を振り返ることで、確実に人間性を磨いていくためのアイテムになってくれるはずである。



続いて、その人の魅力を引き出すイメージコンサルティングオフィス「私ブランド塾SHINBER」校長の「ちとせ先生」による自分磨きセミナーを行った。初対面にもかかわらず、ちとせ先生を見た瞬間から憧れの眼差しを送る新採の先生たち。一瞬にして新採たちを魅了してしまったちとせ先生は、約十年前のご自身の顔写真を公開することから話を始めた。十年前の牙えなかつた自分から、今の自分になるまでを語る中に、新採の先生たちを勇気づけるメッセージ、自分の可能性に自信を持たせてくれるメッセージがたくさん詰まっていた。心の中で大きな影響を受けた先生も多いはずである。

最終日の手遊びコンクールは、対象年齢を踏まえて、すぐに子どもたちとできるもの、すぐにでもやりたいと思うものを作ってもらった。三日間の協力活動の集大成として、各グループともハードなスケジュールの合間を利用して一生懸命作り上げた。順位はつしたが、「全部いい！全部覚えてやりたい！」と声があがるほど、大変だったけど作って良かったという実感が伝わってきた。園に戻って実際にやってみて改善を重ねながら、自分の成長と共に今回作った「手あそび」も成長させてもらいたいと思う。

この宿泊研修の成果が、一時の熱で冷めてしまうことなく、今後の先生人生に大きな影響を与え続けることを期待したい。

就職説明会

期日 平成二十二年七月十日(土)

場所 マロニエプラザ大展示場

参加状況

参加園数

一二七園

参加者数

四二〇名

参加者内訳

県内学生

三二六名

県外学生

八一名

一般(社会人) 一三名

恒例の、栃幼連主催の就職説明会が開催された。当日は暑い日であったが、昨年より多くの園が参加する中、盛況の内に実施された。県内の幼稚園では、例年、二百名程の新規採用があるが、会場では幼稚園教諭を目指す学生と、より良い教諭を採用したい幼稚園側との熱心な話し合いが行われた。





第十七分科会 新規採用幼稚園教諭研修

七月二十七日（火）に栃木県幼稚園教育研究大会の第十七分科会として、新規採用幼稚園教諭研修の第三日が行われました。

★演習「幼児理解」

午前中は、「幼児理解」をテーマとした演習でした。



はじめに、全体会で、文部科学省作成の研修用ビデオ「いっしょにやろうよく伝え合う気持ち・五歳児」を視聴し、「はるかちゃん」という一人の女の子について話し合いました。一見、自分勝手な行動ですが、「自分の考えをしっかりと持っている子」「友達のやることをよく見て、慎重に行動する子」など、表面的な見取りではなく、子どもの内面を理解しようとする意見が多く、感心しました。

その後、グループに分かれ、同様の演習をしました。協

議を通して、自分とは違った子どもの見方や新たな援助の方法を知ることができました。

十名の指導の先生方からの的確な助言もあり、幼児理解を深めることができました。

★ワークショップ 「コミュニケーション能力の向上を目指して」



午後は、総合教育センター生涯学習部の職員を講師として、コミュニケーション能力の向上をテーマとしたワークショップを行いました。

緊張した表情で始まりましたが、「あとだしジャンケン」「バースデイライン」等のアイスブレイクで、あっと言う間に和やかな雰囲気となりました。

ロールプレイ等を通して、子どもや保護者の話に心を寄せて聞くことや、思いを認め、受け止めることの大切さを実感している様子が見られました。

日々の保育の中で、保護者との対応等に悩むこともあると思います。人とかわかることの楽しさを味わえた時間となりました。二学期からの保育に役立てていただきたいと思います。

幼稚園・保育所等 パワーアップセミナー

少子化や情報化等、社会の急激な変化は、子どもの育ちに様々な影響を与えています。さらに、子育てに悩む親が増える中、幼稚園においては、地域における幼児期の教育の中核的施設としての役割が求められています。教育要領の改訂においても、その機能の拡充が明確になりました。すでに、各園で、様々な子育ての支援や預かり保育等が盛んに行われています。

この研修は、それらの取組に役立てていただけるよう、新規に立ち上げたものです。県内の幼稚園長、もしくは、それに準ずる教職員の先生方を対象に、五か年計画で実施する予定です。

第一日（六月九日）は、子育て支援の必要性を再確認し、各園の現状や課題等を協議しました。

今回、第二日は、幼稚園における子育て支援の実践発表（他県）と地域に開かれた園づくりのアクションプランを作成しました。



県生涯学習課や教育事務所の社会教育主事の協力で、子育て支援に関する地域人材・資源やその活

用等についての情報を得ることができました。この日の様子は、下野新聞（八月二十二日付）に掲載され、多くの県民に周知されました。

今後、第三日



（十月二十日）は、総合教育センター生涯学習部の「家庭教育オピニオンリーダー研修」との共催となり、さらに人脈を広げ、アクションプランの充実を図ります。そして、最終日の第四日は、作成したアクションプランを元に各園での実践研修となります。

御多忙中、多くの先生方の御協力に心より感謝いたします。

これからの研修

夏休み明けから秋にかけて実施する研修をお知らせします。

●特別支援教育研修

十月二十八日（木）十三時三十分、個別の支援計画作成や事例研究をします。

●家庭教育支援セミナー

十月二十日（水）十時、子どもの生活習慣に関する講話と親学習プログラムの体験をします。

（文責 高木 恵美）



学事だより

県文書学事課

平成二十二年幼稚園財務関係調査の実施について

標記調査を七月から対象幼稚園において実施しております。調査内容は次のとおりです。

- ・学校法人の管理運営状況
- ・幼稚園の管理運営状況
- ・会計処理状況 等

実施日時等の詳細については、対象幼稚園設置者あてに通知しております。調査への御協力をお願いします。

なお、今年度、調査対象外の幼稚園においても日常業務の再点検を行い、適正な管理運営に努めていただくようお願いいたします。

また、点検の結果、園則変更、園地・園舎変更、理事・監事就任届等が未提出の場合には、早急に提出されるようお願いいたします。

各種提出書類について

●幼稚園運営費補助金交付申請書

- ・提出期限 十一月中旬
- ・平成二十二年幼稚園運営費補助金（一般補助分）の内定については、十月末頃を予定しています。交付申請書の提出にあたっては、別途通知する内定通知に基づき提出願います。

●幼稚園教材費等補助金交付申請書

- ・提出期限 十月十五日（金）

●幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金（特別補助分）関係書類

一 特別支援教育

- ・提出書類

- ア 対象園児就園状況調査
- イ 対象園児担当・指導教職員に関する調査

- ウ 対象園児である旨の判定調査
- ・提出期限 十月二十九日（金）

※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書、児童相談所の判定書のいずれかが必要となります。

また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、ご留意願います。

二 子育てランド事業

- ・提出書類
- ア 子育てランド事業実施計画書
- イ 各事業における保護者等への案内通知（写）

- ・提出期限 十一月上旬

三 わんぱく保育推進事業

- ・提出書類

- ア わんぱく保育推進事業実施計画書
- イ 預かり保育実施記録
- ウ 保護者等への案内通知（写）
- ・提出期限 十一月下旬

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上提出願います。

平成二十二年 十月～十二月の事業予定

10月18日	保育セオリー講座
10月20日	※家庭教育支援セミナー ※パワーアップセミナー
10月21日	公開保育研究会（宇大附属幼稚園）
10月22日	幼稚園教育振興の集い（足利市）
10月23日	第17回ピカピカの栃木県
10月25日	第26回全日私幼連 設置者・園長全国研修大会（兵庫）
10月28日	※特別支援教育研修 保育テクニカル講座
11月5日	全日私幼連 関東地区代表者協議会群馬
11月10日	※10年経験者研修（保育専門研修）
11月11日	とちぎ教育振興大会
11月13日	資質向上選抜養成講座Ⅵ
11月16日	設置者・園長研修会
11月17日	全日私幼連PTA大会（東京）
12月4日	※保育を語る会
12月6日	保育セオリー講座
12月24日	新規採用幼稚園教諭研修集合研修 ※は幼児教育センター事業

お詫びと訂正

前号において左記の誤りがありました。ここにお詫びし、訂正いたします。

- P.4 3段目1行目
(誤) 102条園対策委員長 根室隆宣
(正) 102条園対策委員長 根村隆宣
- P.5 右上部 経営研究委員会の表中
(誤) 専門委員 小野塚泰弘
(正) 専門委員 小野瀬泰弘

編集後記

海外に居る身内とのやりとりの為に一年ほど前から使いはじめたスカイプは、私のパソコンの最も便利なツールとなっている。

その仕組みについては、未だに理解不能のままだが、とにかく素晴らしい機能である。時空を越えて目の前に居るかの様に、お互いの顔を見ながら地球の裏側の相手とも会話ができる。更に驚くべき事は百円玉一つでは水も買えないこの時代に、何時間話しても何処にかけても無料である。有り難い!! そう遠くない未来、私達の係わる会議もペーパーレス時代のネットを通じた会議に取って代わる様な予感がする。そんな時代が来るのが待ちどおしい。

既に県幼連関係の情報はホームページ上に公開されているが、更に多くの会員がホームページを閲覧し、情報を広く共有して欲しい。二学期になっても相変わらず連日の猛暑、涼しくなるのは暫く先らしい。だが日が落ちて暗くなると何処からか虫の声が聞こえる。秋はもうすぐそこである。

(広報委員 岩本眞砂枝)

